

〈隷書〉

草根已定春來意
梅蕊猶含臘後寒

吉田成美先生書

（この課題で書体は自由。但し、この課題は一人一点のみとする）

半折作品は各課題ごとに横／＼一枚ずつたんで提出ください。

〈楷書〉

草根已定春來意
梅蕊猶含臘後寒

清原大龍先生書

□ 草根已に定まる春來の意 梅蕊猶含む臘後の寒 （彭汝砺）

次号予告「九重城闕天將曙 百萬人家戸不扃」

〈行書〉

山本飛雲先生書

草根已定春來意
梅蕊猶含臘後寒

▽春の根は早くも青みざして春の来た風情が見え、梅花はまだ春浅くして残冬の寒さを含んでいる。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書

可勢を意多み い者うつなみの おのれの身 ぐ堂介てものを おもふころかな
風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ くだけて物を 思ふころかな

□可勢を意多み い者うつなみの おのれの身 ぐ堂介てものを おもふころかな

△百人一首四十八△

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

井之上 南岳先生臨

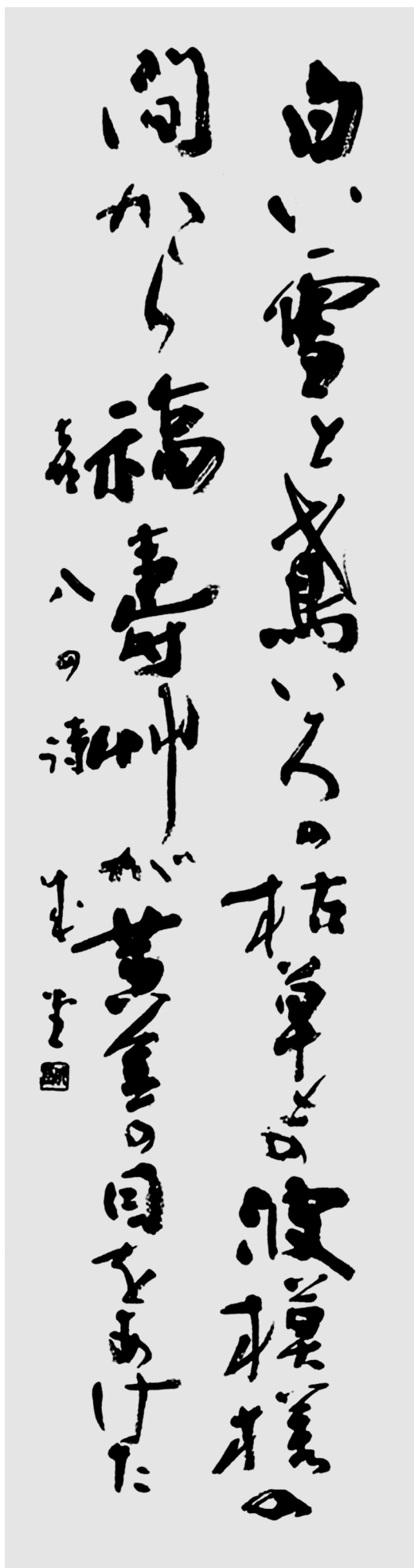


▽孔宙碑（本誌五十一頁の古典教室を参照下さい。）

彫幣（弊）濟弘功於易簡三載考績遷元於易簡

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田 成堂先生書



□（尾崎喜八の詩） 白き雪と 鳶いろの枯草との 波模様の間から 福寿草が 黄金の目をあけた

《手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横／＼に一枚ずつたんで提出ください。

条幅 随意参考手本（半折 $\frac{1}{2}$ 横のみ） — 2月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

《手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。》



井之上 南 岳 先生

□ 田中 肇の句

流星や

一本杉の

峠道

書作品を創る時、余白をいかに残すか、いかに創るか、いつも悩めることだ。今月は余白を多めに明るい作を心掛けた。



小 畠 秋 聲 先生

□ 飛觴

（觴を飛ばす）

觴はさかずき。酒宴をひらいて楽しむ。

錬成会の折、一見すると不格好な筆を購入して試みに書いてみると、これが仲々使えました。日頃の羊毛では出ない線も！。用具を変え、気分も変えて作品づくりを！

※半折 $\frac{1}{2}$ 横

の出品票

は作品の

左下に貼

って提出

下さい。

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)



□ 氷は消えて泉派動く (唐・劉威)
氷の消えるころには、土の中の水脈も動き始める。

次号予告「泥融飛燕子」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)



□ 氷は消えて泉派動く (唐・劉威)
氷の消えるころには、土の中の水脈も動き始める。

次号予告「泥融飛燕子」

吉田成美先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

□ 心曠神怡 こころびら じんこうしんぎふ
初心は広々として楽しむ。心の和むさま。
(宋・范仲淹)



次号予告「乗風破浪」

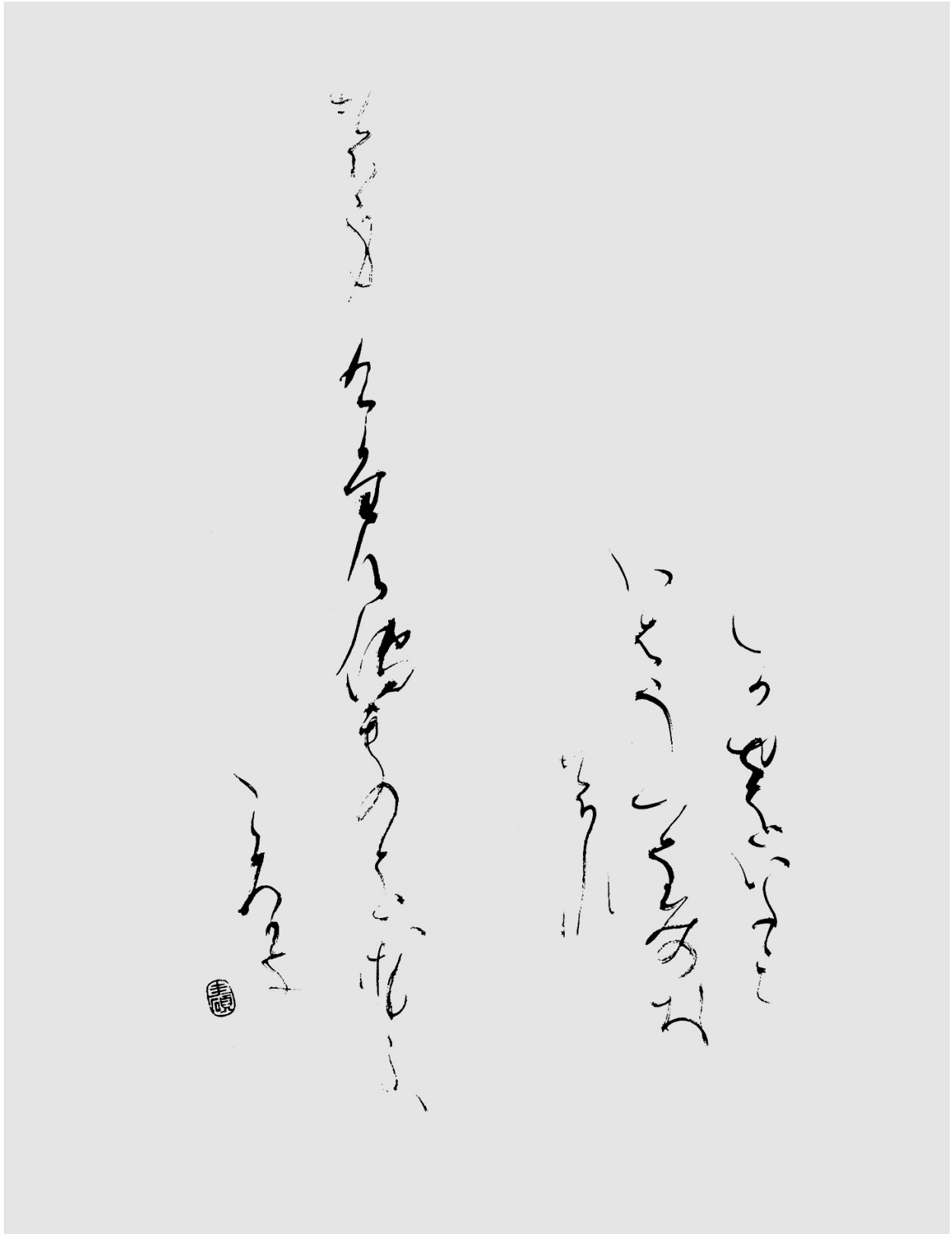
渡 邊 大 嶽 先 生 書

半紙随意参考手本 — 2月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△仮名▽

風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ くだけて物を 思ふころかな



□ 可^かせをい多^た三^み
い者^はうつなみの お農^のれ農^の身^み
九堂^{くたけ}介傳^てものを おもふころ可^かな

舟尾圭碩先生書

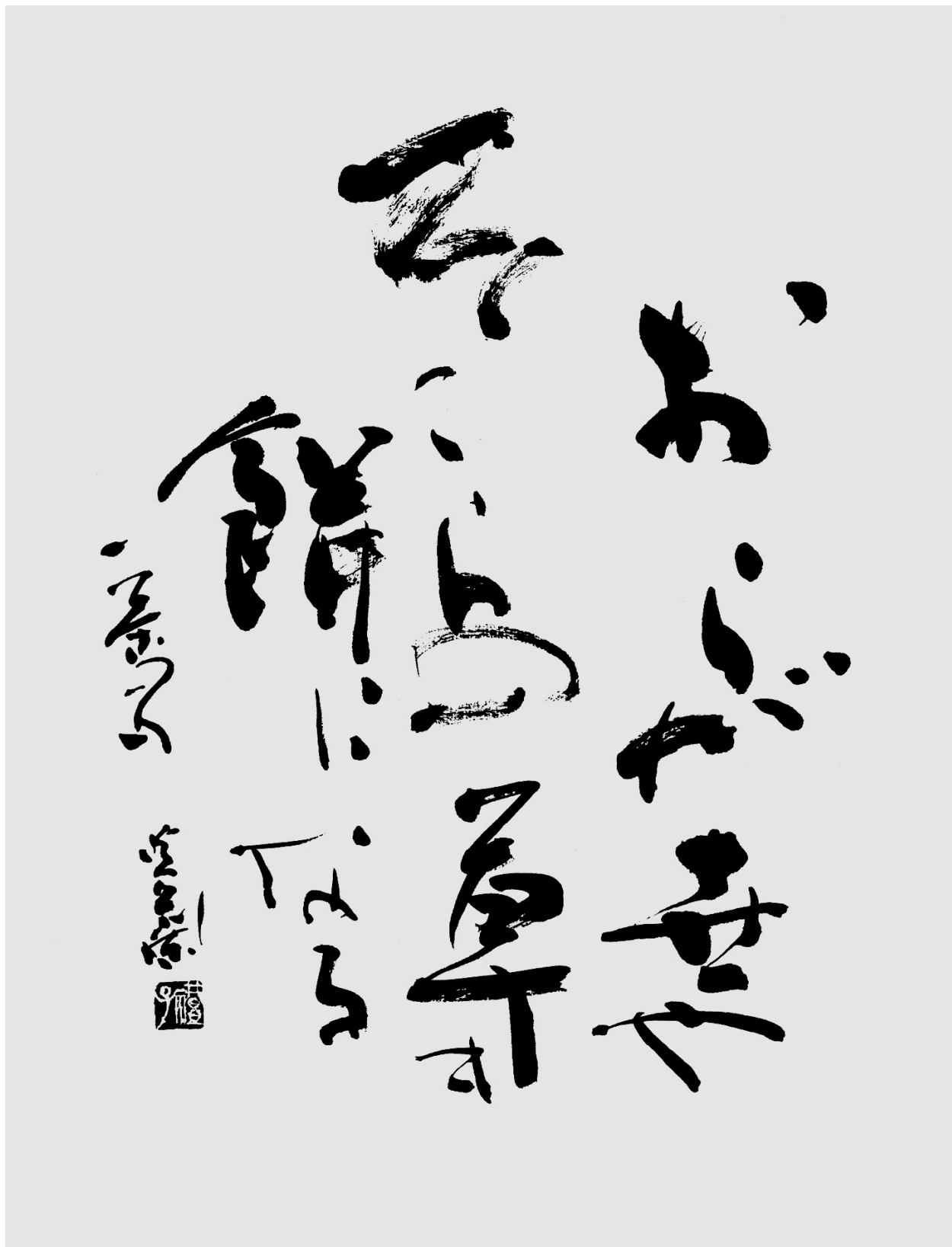
半紙随意参考手本 — 2月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△詩文書▽

おらが世や そこの草も 餅になる △小林一茶の句▽

※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)



西谷芝蘭先生書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

△臨書▽
字形を偏平に、字間をすっきりと長くゆったり表現したい

遷 令
元 是
時 城

蘇
水
臨



「遷元城令是時」

廣 瀬 蘇 水 先 生 臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△実用書▽

学校 児童 生徒 会社 役員 営業
勉強 仕事 余暇 新聞 雑誌 図書

姓 号	新 聞	勉 強	会 社	学 校
	雑 誌	仕 事	役 員	児 童
	図 書	余 暇	営 業	生 徒

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文▽

待望の赤ちゃん誕生おめでとう

母子ともに順調だと新米パパの声

が弾んでいました対面出来る日を

楽しみにしています健やかな成長

を心からお祈りしています



待望の赤ちゃん誕生おめでとう 母子ともに順調だと新米パパの声が弾んでいました

対面出来る日を楽しみにしています 健やかな成長を心からお祈りしています

伊良子 喜代先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

〈暮らしに役立つ書〉

書言

雪まつりと言えは、札幌の雪まつりがよく
知られますが、東北にも「みちのく五大雪まつり」
があるのをご存知ですか。その一つ「横手かまくら」
へは昔訪れましたが、かまくらの中では甘酒や
大鉢で焼きたお餅をいただき、冷えた体と心が
暖かくなりました。

他のお参りも二月に開催されます。九州には
ない寒い地方の伝統文化に触れ、東北を盛り
上げていきたいと思います。

寛子

野のある便箋に書いてみよう。

〈26 cm × 18 cm〉

紙質は自由。

- お手紙を書くことが苦手な方は、多いと思います。私自身も決して得意ではありません。特に、正しい形式で…や、目上の方に…となれば尚更です。まずは、家族やご友人にお話する気持ちで短い手紙を書いてみましょう。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵頭白慧先生書

早春の光

小学 4 年

花ことは

小学 3 年

おもいで

小学 2 年

あい

ようねん・小学 1 年

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

歴史に学ぶ

中学 2・3 年

出発の時

中学 1 年

緑の大地

小学 6 年

日本の美

小学 5 年

坂元紫香先生書

△条幅 1/4 四尺画仙紙半折 1/4 : 68 cm × 17・5 cm △

ようねん・小学一年

次号予告「は な」

あい

□「あ」の三画目は筆を指でまわさず、腕全体で伸びやかに書きましょう。

小学二年

次号予告「三」

いおも

□「お」の三画目や「て」の濁点の位置に気をつけて、ていねいに書きましょう。

坂 元 紫 香 先 生 書

小学三年

次号予告「虫」

花とばこ

□「花」は文字の中心や組み立て方に注意し、ひらがなは画から画の流れを自然にだそう。

小学四年

次号予告「交 流」

早春

□「早」はひし形、「春」は台形の字形を保ちながら、中心と「はらい」に気をつけて書こう。

吉 田 成 美 先 生 書

小 学 五 年

次号予告「考える力」

の 日
美 本

□「日本」は文字の中心に気をつけて。「美」は七画目の横画を長く、「はらい」をのびのびと。

小 学 六 年

次号予告「夢の実現」

大 緑
地 の

□「緑」は文字の中の空間に注意しましょう。左右の「ハネ」や「ハライ」はゆつくり丁寧に。

秋 永 春 霞 先 生 書

中 学 一 年

次号予告「不言実行」(行書)

出 発

□「出」は一画目を強く、やゝ台形を保ち、「発」は筆順に気をつけ、「ハライ」を伸びやかに。

中 学 二 ・ 三 年

次号予告「花鳥風月」(行書)

学 歴
ぶ 史 に

□各文字の字形に注意しながら、点画の流れを意識し、行書らしい丸味のある作品にしよう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学二年

段 級				
氏 名				
	帰	ス	け	白
	つ	ー	て	馬
	て	ホ	、	は
	き	の	大	、
	た	と	す	走
	の	こ	き	り
	で	ろ	な	つ
	す。	へ		づ

①たてせんに さきに かく
 ②てんの むきに ちゅういうする
 ③上の よこせんよりも ながい
 ④はねる

ようねん・小学一年

段 級				
氏 名				
	を	糸車	んや	たぬ
		を	っ	き
	く	ま	て	は
	り	わ		
	か	す	き	ま
	え	ま	て	い
	し	ね		ば
	た。			

つ　　や　　く　　ゑ　　么　　々　　糸　　一　　一　　百　　亘　　車
糸車（いとぐるま）

坂元紫香先生書

小学四年

	毎年マリアナの海にやつて来る目的は、ウナギがどんな一生を送る生き物なのかを調査することです。
段 級	
氏 名	

了
自
白
的
的

上のよこはかくより長い
送

とめる

物

小学三年

[illegible]

一 ㊦ とめる
 門 ㊦ はねる
 門 ㊦ はねる
 問 ㊦ はねる
 ㊦ ななめにつ
 言 ㊦ はねる
 訃 ㊦ はねる
 調 ㊦ はねる
 調 ㊦ はねる
 一 ㊦ なが
 一 ㊦ つき
 一 ㊦ きてる
 一 ㊦ なが
 一 ㊦ つき
 一 ㊦ きてる
 一 ㊦ なが
 一 ㊦ つき
 一 ㊦ きてる

坂元紫香先生書

小 学 六 年

段 級	
氏 名	
海中に棒になって差しこんだ光が、波の動きにつれ、かがやきながら交差する。耳には何も聞こえなかったが、太一はそう大な音楽を聞いているような気分になった。	

十 木 杵 杖 柶 棒
 下がいちばん長い
 ソ 一 羊 芦 差
 ニ 沙 波
 間をあける

小 学 五 年

段 級	
氏 名	
おはあちゃん、まじめな顔になつて、眼鏡を外しました。「それじゃあ、ひとつ、わらぐつの話をしてやるかね。わらぐつの中に神様のいなくなった話をね。」	

立◎
よこせんでて
産◎
よこせんにつける
彦◎
とめる
顔
顔

目
目
目
眼

金
金はらう
金◎
まっすく下におちす
金上
上にはねる
鍮
鏡

小 畠 秋 聲 先 生 書

一 般 (A)

[illegible]

(この課目は $A \cdot B$ いずれか一点のみとする)

※12%拡大で原寸大になります。

中学

[illegible]

、
シ
汎
没

广
广
疔
疔
疾
(し)
一
二
开
刑
刑

小 畠 秋 聲 先 生 書